

第35回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ ～21世紀の気候を読む～

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，(財)日本気象協会，(財)気象業務支援センター

●この講座は最新の気象学の普及を目指して，毎年夏休みの時期に開催しています。小・中・高校で理科を担当しておられる先生方の他に，気象学に興味をお持ちの学生や一般の方を対象にカリキュラムを組んでいます。

今回は，「気候」をテーマに取り上げます。21世紀はじめにあたり，現在までの気候変化を振り返ると共に，将来の気候を予測しようと思います。講義では，基礎知識から最近の知見や研究はもちろん，IPCCなどの報告書には書かれていない様々な苦労や裏話も紹介します。また，見学会では，気象庁の海洋観測船の見学を予定しています。

受講料：一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・学生4,500円（消費税含む）

日時：平成13年8月6日（月）（9時30分受付開始）から8月8日（水）までの3日間（ただし，8日は希望者（定員30名先着順）による見学会のみ行います）

会場：東京都文京区本郷7-3-1
東京大学本郷キャンパス内
東京大学山上会館
（次ページの地図を参照して下さい）

●往復はがきの往信に以下の必要事項を，復信には宛先を記入してお申し込みください。受付次第，復信にて受講の可否をお知らせします。

- 1 「夏季大学参加希望」
- 2 住所・氏名
- 3 職業

学生・教員の方は，所属がはっきり分かるように記入して下さい。それ以外の方は，概略(会社員，団体職員等)で結構です。なお，気象学会員の方は「気象学会員番号」を，あわせて記入願います。

- 4 連絡先電話番号（平日日中に連絡可能なところ）
- 5 見学会への参加希望の有無
- 6 テキストの送付先
住所と同じ場合は省略して構いません

申込先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内 日本気象学会事務局

申込締切：平成13年7月13日（金）必着
ただし，定員（約100名）に達しましたら締め切らせて頂きます。

受講料支払方法：復信受け取り後，郵便振替によりお支払いください。受講料の振込を確認した後，テキストと受講票をお送りします。口座番号等は復信によりお知らせいたします。

●テキストのみ希望される方は，はがきに必要部数を書いてお申し込み下さい。テキストと振替用紙をお送りします。代金は1部1,000円と送料（実費）です。刊行部数が少ないので早めにお申し込み下さい。

●会場への交通

地下鉄丸の内線

本郷三丁目駅下車徒歩10分

地下鉄南北線

東大前駅下車徒歩10分

地下鉄千代田線

湯島駅または根津駅下車いずれも徒歩10分

都バス東大構内行き

上野浅草口，お茶の水聖橋口：東大病院前下車

都バス荒川土手行き

東京駅丸の内北口：東大正門前下車

都バス駒込駅行き

東京駅八重洲口：東大正門前下車

●お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel：03-3212-8341（内線2546）

Fax：03-3216-4401

第35回夏季大学「新しい気象学」～21世紀の気候を読む～ 講義時間表

8月6日 (月) 10:30～ 12:00	気候システム概論 鬼頭昭雄 (気象研究所気候研究部)	現在の地球の気候はどのように決まっているのか、また気候は様々なスケールで変動しているがそれはどうか、についての入門的講義を行うとともに、IPCC 第3次評価報告書の概要について紹介する。
13:15～ 14:45	過去 2000 年間の気候を読む 三上岳彦 (東京都立大学大学院理学研究科)	地球規模で気象観測データが得られるのは最近 100 年程度にすぎない。それ以前の気候を知る手がかりは、樹木やサンゴの年輪、雪氷コア、古文書記録などである。このような代替データから過去 2000 年間の気候を読む試みを紹介する。
15:00～ 16:30	新しい平年値の話 勝山税 (気象庁統計室)	平年値はその時々々の気象や天候を評価するための基準として利用される。本年 (2001 年) より新しい平年値が利用されている。この平年値がどのように作成されたのか、今までの平年値とどう違うのか、利用の仕方、について解説する。
8月7日 (火) 9:30～ 10:45	オゾン層と温室効果ガスの観測・監視 宮内誠司 (気象庁オゾン層解析センター)	オゾン層・紫外域日射の状況、オゾン層破壊の機構、オゾン層・紫外域日射の観測方法などについて紹介する。さらに、温室効果ガスの世界的な観測網と観測成果について話題提供する。
11:00～ 12:15	世界の異常気象と気候変動 中三川浩 (気象庁気候情報課)	20 世紀における世界の異常気象の発生状況とその気候的背景を解説するとともに、IPCC 第 3 次報告書に述べられている異常気象について紹介する。
13:15～ 14:45	気候モデルと気候予測 野田彰 (気象研究所気候研究部)	気候モデルは 21 世紀にどのような気候変化が起きると予測しているのだろうか。予測結果を羅列するのではなく、気候モデルは何故そのように予測するのかについて考える。
15:00～ 16:30	地球温暖化の影響 原沢英夫 (環境研究所社会環境システム部)	IPCC によれば、2100 年までに地球の気温は 1.4～5.8 度上昇し、海水面は 9～88 cm 上昇すると予測している。確実に進んでいる温暖化の自然生態系や人間社会に及ぼす影響について、IPCC および「温暖化の日本への影響」報告書をもとに解説する。
8月8日 (水)	見学 (気象庁海洋観測船「凌風丸」・希望者のみ) 13:30～14:30 観測船上に搭載された各種の海洋観測・気象観測測器を見学し、観測の意義や成果等について解説する。なお、希望者多数の場合、14:30～15:30にも実施する予定です。	

東京大学山上会館案内図

